

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

ダイキョーニシカワ株式会社 大和工場

(2) 事業所の所在地

〒729-1332 広島県三原市大和町上草井505番地

(3) 業種

輸送機械器具用プラスチック製品製造業(1832)

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25（2013）年度を基準年度とし、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

ダイキョーニシカワ（株）環境方針

環境理念

「全員参加で、徹底した環境保全活動を継続的にを行い、人・社会・地球にやさしい企業になります。」

環境方針

1. 企業活動が環境に与える影響を把握し、環境目標を定め、定期的な見直しを行うとともに、環境マネジメントシステムにより環境パフォーマンス向上のための継続的改善を図り、環境の保護及び汚染の予防に努めます。
2. 企業活動、製品及びサービスの環境に与える影響の中で、特に以下の項目について、優先的に活動し、徹底したロス低減と環境改善に取り組みます。
 - ・廃棄物の削減とリサイクル化
 - ・省資源、省エネルギーの推進
 - ・環境負荷物質の管理・低減
3. 環境に関連した法規制およびその他の要求事項を順守します。
4. この環境方針は、私の責任で文書化し、当社のために働く全ての人に周知し、実行し、維持します。
5. この環境方針は、社外に公表します。

ダイキョーニシカワ株式会社
環境最高責任者

改定 2022年11月1日

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和6（2024）年度
二酸化炭素	11,202	6,452

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF ₆ NF ₃)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

売上高(百万円)

単位：排出量(t-CO₂)、原単位量(kg等)、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25 (2013) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和11 (2029) 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)		排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	11,202	4,215	2.7	70.3	6,129	7,804	0.8
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量	11,202	4,215	2.7	70.3	6,129	7,804	0.8
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	—	—	0.92	63.6	—	—	0.34
目標設定の考え方	エネルギー消費原単位として原単位ベース1%の削減率						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	燃料使用量の削減	原単位 1%/対前年 (5%/5年間 削減)	・ボイラーの更新 ・配管保温の更新 ・ライン稼動に合わせた運転時間見直し
2	電気使用量の削減	原単位 1%/対前年 (5%/5年間 削減)	・蛍光灯LED化 ・排熱回収による省電力化 ・ヒーター保温による省電力化 ・設備冷却水温度の見直し
3			
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

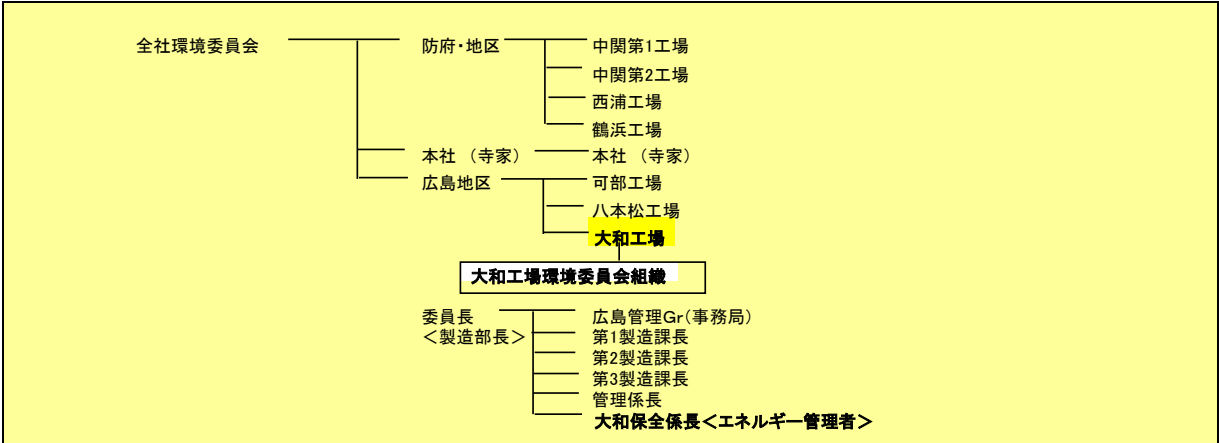
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	環境負荷物質の管理/低減	環境負荷物質；自主管理計画 (実施率 100%)	・新規部品；環境負荷物質データ入手（測定&登録） ・化学物質の適正管理/SDSの教育
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

保全課及び管理Grを中心として、毎年温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、環境委員会(毎月)マネージメントレビュー(2回/年)において定期的に評価・見直し等を行い、継続的な向上を図る。
また、毎年度の取組状況、点検・評価内容等については、計画書とともに公表する。

(3) 計画書等の公表

事業所に備え付けて閲覧する。